

★恵那市と懇談

二月二十五日、恵那市の医療福祉部次長さん、係長さんと懇談しました。連絡会から三人出席

「再検証医療機関に恵那病院がリストアップされているが、どんな対策を考えているか」と聞いたところ、「何もしていない、どうにかこのままで行きたいと思っっている」との返答、「現状のまま二〇二五年まで維持出来るのか」と聞くと「今は変化の時代なので、ずっとこのままと言うわけにはいかない、しかし、来年度までは医師の確保はできている。今のところ県も国もなにも命令してこないの、何かやるということもない」との回答でした。

両病院の現状は次の通り

上矢作病院

総床数 56床

一般 15床 地域包括 41床

市立恵那病院

総床数199床 回復リハ50床 産科15床



★瑞浪市長と懇談

二月二十八日、瑞浪市長と懇談しました。連絡会から八人出席、五市すべての組織から参加されました。

市長さんは東濃医療圏域を3つに分け、西部の中心は多治見県病院、東部は中津川市市民病院、中部は土岐総合病院と東濃厚生病院を統合した新しい病院が中心となつて医療体制を構築する。もちろんあいだにある多治見市民病院と恵那病院もそれぞれの役目を担う。病院をつぶすのは反対。

土岐総合病院と東濃厚生病院の統合は新病院をどこに建てるかが決まっていない。瑞浪市としては地域エゴは言わない。しかし、あまり多治見に近づくとも度は多治見市民病院が危ないと思う。

地域医療構想は賛成、理由はあまりにも赤字の病院が多く、一般会計からの繰り入れが莫大だから、病院赤字の最大の原因は医師不足、病院だけではなく開業医の高齢化も深刻と雄弁にかたられました。

★中津川市議会議長と懇談

二月二十八日、中津川市議会議長と懇談、連絡会からは五人参加しました。

病院問題は党派でもずいぶん勉強してきた。一番むずかしいのは、赤字を抱えた公立病院を二つ抱えている市。どこもうまくいっていない。国にも県にも策はない。

うまくいかない最大の原因は医師不足。医局とのつながりがないと百回通っても、医師を確

保できない。人口十二万の市と八万の市が共同で一つの大きな医療センターを作ったら、医師が増えたという話があるが、坂下病院の規模で、単独で医師確保はもはや不可能という話でした。議会で意見書をあげるなどの行動は今までいろいろやってきたが効果ないからやらないという回答でした。

★土岐市立総合病院の存続を求める

市民の会の活動

市民の財産である市立総合病院をまもるため、市長や病院長への要請、チラシやポスターによる宣伝、署名活動、市民集会、パレードの開催、市議会への誓願（残念ながら、僅差で秘訣）など行ってきました。引き続き運動を発展させるため、現在六枚目のチラシを作成中です



県との懇談

コロナ騒動で変更になりました

三月二十四日 午後一時から二時

なお調整中であります

